

経営比較分析表

香川県 坂出市

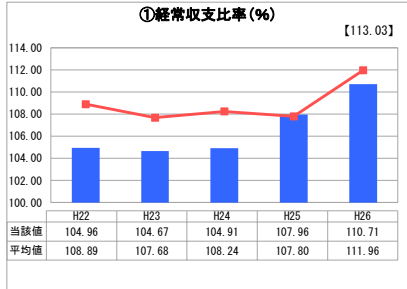
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	39.50	99.82	3,240

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
55,267	92.51	597.42
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
55,003	50.80	1,082.74

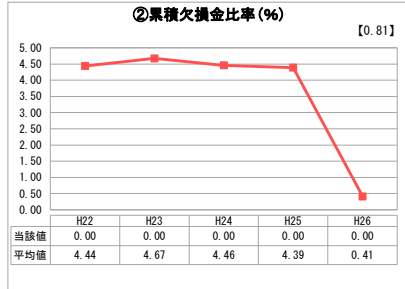
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

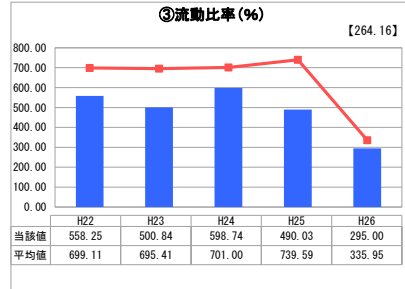
1. 経営の健全性・効率性



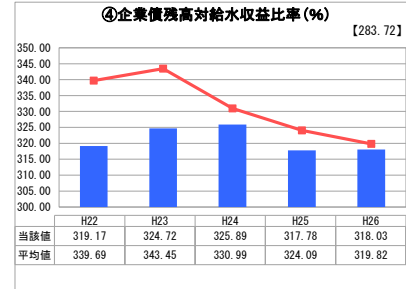
「経常損益」



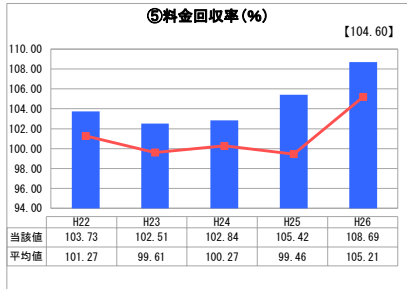
「累積欠損」



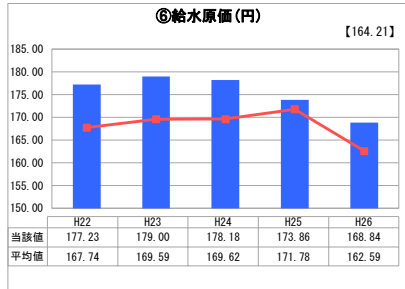
「支払能力」



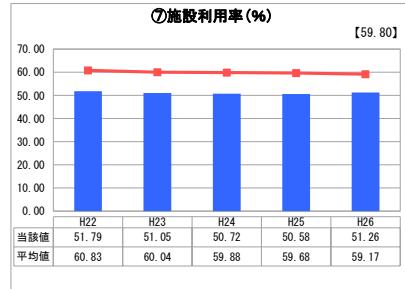
「債務残高」



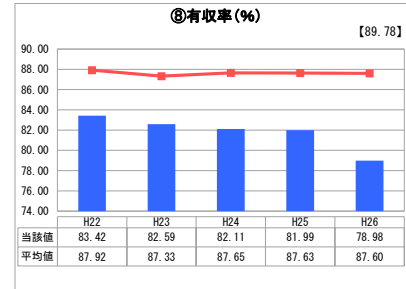
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

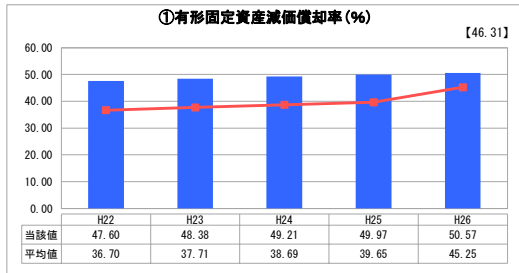


「施設の効率性」

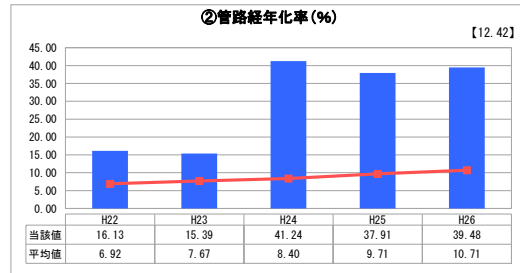


「供給した配水量の効率性」

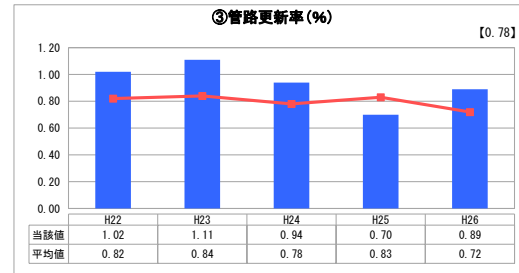
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤料金回収率、⑥給水原価
 料金回収率は安定して100%を超えており、給水にかかる費用は料金で回収できている。経常収支比率が類似団体平均を下回っている理由は補助金等の給水以外の収益が少ないためで、概ね適切な水準を維持できていると考えられる。給水原価は類似団体平均を上回っており、主な原因として有収率が低いことが考えられる。
 ②累積欠損金比率、③流動比率、④企業債残高対給水収益比率
 累積欠損金は昭和60年に解消して以来発生しておらず、給水収益は減少傾向にあるが今後も発生しない見込み。流動比率は類似団体平均に近く、流動資産の大半が現金預金であるため適切な水準と考えられる。企業債残高対給水収益比率は平均に近く、料金回収率も平均並みであり、規模に見合った企業債残高と考えられる。
 ⑦施設利用率、⑧有収率
 施設利用率は類似団体平均を下回っているが、渇水時に削減される受水量を補うための施設能力を確保していることが一因と考えられる。有収率は類似団体平均を大きく下回っている。これは管路の老朽化等による漏水が原因と考えられる。また平成26年度は大規模な漏水で有収率が減少している。
 ※①経常収支比率、③流動比率、⑤料金回収率、⑥給水原価について平成25～26年度に大きく増加(減少)しているが、これは会計制度の改正によるもので、今後は平成26年度の水準で推移すると見込まれる。

2. 老朽化の状況について

坂出市は昭和10年の供用開始で昭和55年まで拡張事業が続いたため、創設時の配水管の更新が遅れ、経年化率が高くなっている。
 ①有形固定資産減価償却率
 類似団体平均を上回っている。主要な固定資産は配水管であり、現在の更新率、物価水準が続いた場合80%超になるため、今後も増加が見込まれる。
 ②管路経年化率
 類似団体平均を大きく上回っている。現在の更新率を維持すると経年化率は60%超になることから、今後も増加すると見込まれる。また平成24年度に大きく増加しているのはマッピングシステム導入を行いすべての管路を評価しなおしたことによる。
 ③管路更新率
 補助金を活用し更新を行っており類似団体平均を上回っているが、更新率は1%を下回っており、すべての管路を更新する場合100年以上を要する。

全体総括

現在は経常収支比率・料金回収率とも100%を超えており、他の指標も平均的に健全な経営状況にあるが、有収率の低さがひとつの課題である。これは管路経年化率が高水準にあり漏水量が多いことが原因と考えられるため、管路更新率を維持・向上する、漏水防止対策を徹底するなど対策を効率的に行っていくことで徐々に改善すると考えられる。
 管路更新については、現在も類似団体を上回るペースで行っているが、財源になる給水収益が減少傾向にあるため、費用の節減や、補助金等の給水収益以外の収入を活用するなど財源の確保に努めなければならない。また将来的に施設の固定費・企業債にかかる費用等の比重が相対的に高くなることが予測され、長期的な視点で施設能力の見直し、企業債残高の縮減をすすめていく必要がある。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表

香川県 坂出市

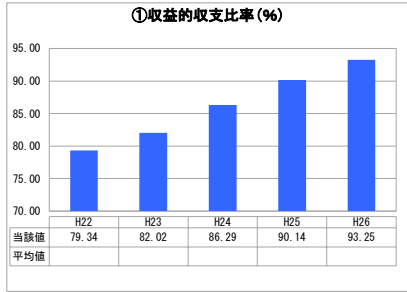
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	23.08	93.74	2,808

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
55,267	92.51	597.42
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,719	3.02	4,211.59

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



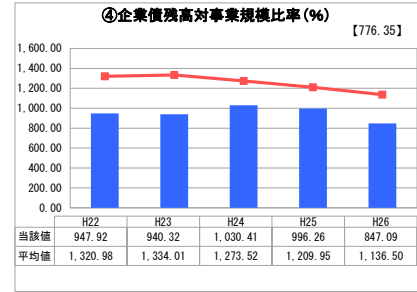
「単年度の収支」



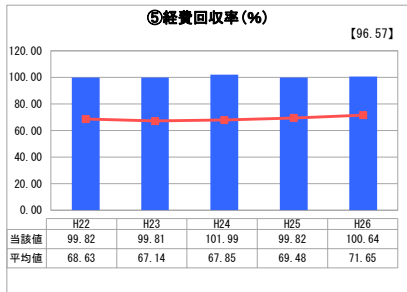
「累積欠損」



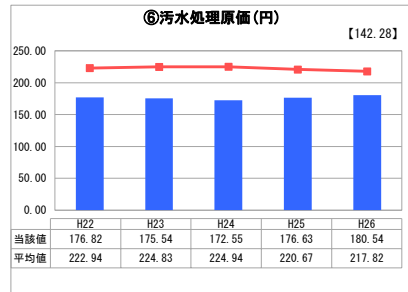
「支払能力」



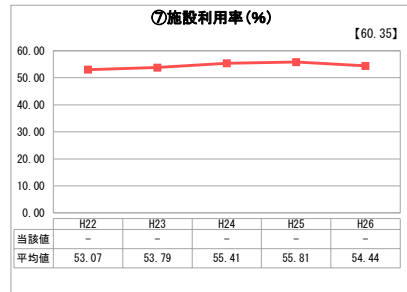
「債務残高」



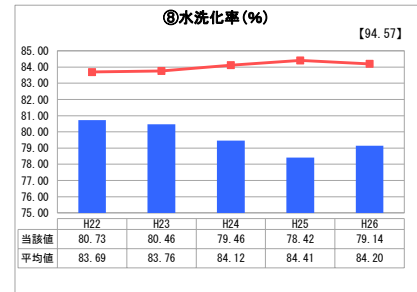
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

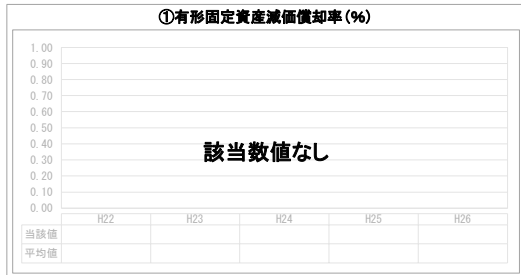


「施設の効率性」

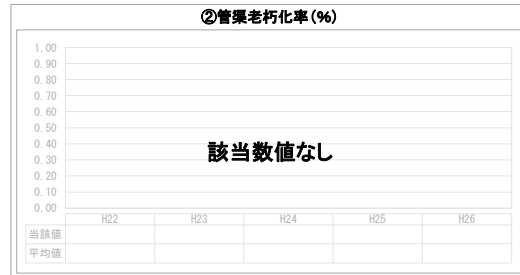


「使用料対象の捕捉」

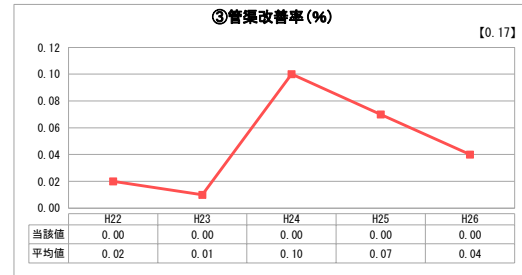
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

昭和52年に下水道事業に着手し、昭和60年から供用開始した。過去においては、瀬戸大橋の架橋や四国横断自動車道建設、鉄道高架および坂出駅周辺整備事業等の大型プロジェクトに取組んだことにより、汚水事業に対する投資を抑えたため、汚水事業の整備が遅れることとなった。

一般会計からの繰入についても大型事業の影響で一時期、ほぼ基準内繰入のみとなったため資金不足が生じ累積赤字が膨らんだ。このため国、県から指導を受け、下水道事業経営健全化計画を作成し、平成27年度を目標に累積赤字の解消を進め、毎年赤字額を減らしてきている。収益的収支比率が徐々に増加しているのはそのためである。

企業債残高対事業規模比率については類似団体より下回っている。平成14年が企業債残高のピークであり残高についてはその後、健全化計画により、投資を抑えたため徐々に下がってきている。経費回収率は100%近くで推移しており、概ね良好な状態であり、汚水処理原価についても、類似団体を下回っているが、全国平均よりは、高くなっている。

また、水洗化率については、経済的な理由で継続しない世帯が多く、80%前後を推移しており、今後その向上に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

昭和53年度よりコンクリート管および塩化ビニール管による管渠整備を開始し、平成26年度末現在の管渠整備延長は約79.2kmとなっている。現在のところ法定耐用年数を経過していないため管渠改善等の施工は実施していない。長寿命化や更新の計画を今後策定する予定である。

全体総括

経営健全化計画により平成27年度で累積赤字を解消する見込みであるが、その後も繰入金に頼ることなく一層経営の健全化を図っていく。今後は、建設事業においては、幹線整備から面整備へと変わっていくことにより、有収水量の伸びや使用料の増が期待できる。

限られた事業費の中、地元要望等を勘案し、投資効果のあるところから重点的に事業を実施する予定である。

また、将来的には、管渠等の更新時期を迎えることから、早めに更新計画を立てる必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。